

2019年8月の行事予定表

1	木	祈祷会	16	金	朝の祈り会
2	金	朝の祈り会	17	土	
3	土		18	日	伝道礼拝式
4	日	総員礼拝式、聖餐式、教会役員会	19	月	
5	月		20	火	
6	火		21	水	聖書の学びと祈り会
7	水	聖書の学びと祈り会	22	木	祈祷会
8	木		23	金	
9	金	朝の祈り会	24	土	
10	土		25	日	礼拝式、各部会。
11	日	礼拝式、奉仕の日	26	月	教団・財政委員会(東京・本部)
12	月		27	火	教団・「プロジェクト」委員会
13	火		28	水	聖書の学びと祈り会
14	水	聖書の学びと祈り会	29	木	
15	木	午前7時 平和の会祈祷会(信愛教会)	30	金	朝の祈り会
			31	土	

8月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 今年も教会学校の夏季ワンデースクールが無事に行われて感謝でした。幼いときからイエス様を覚えて成長できることは、なんと幸いです。
- ◇ 幼子を見守る私たちも成長させていただきたいと、「ニーバーの祈り」を思い出しています。
- ◇ 『神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。』（ラインホールド・ニーバー）
- ◇ 奨励要旨（6月30日）は紙面の関係上、次号に掲載します。

教会月報

2019年8月
No.339

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

平和の尊さ

「平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。
義のために迫害される人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。」

マタイ福音書 5章 9-10節

毎年8月15日(第二次世界大戦の敗戦記念日)が巡ってきます。

1945年6月23日、本土決戦を控えて、日本軍は沖縄を捨石としました。日本軍を率いる沖縄守備隊の隊長、中島中将が自決し、実質的な戦いは終わったと言われます。沖縄戦最大の激戦地、ひめゆりの塔で有名な摩文仁(まぶに)の地は言葉で表現できないほど壮絶であり、集団自決が半ば強制されたとも言われている。8月6、9日、世界で唯一の被爆地となる、広島、長崎への原爆投下は避けられる事が出来たものであったのです。戦後74年たちますが世界は平和でしょうか？

さて、日本のみならず世界中にも格差社会が広がりを見せ、また分断社会が世界をおおっている状況は、閉塞的な雰囲気醸し出します。世界中の数パーセントの超富裕層が、圧倒的多数の貧民層が食べる事にもこと欠くことを忘れてはなりません。しかし、現実には日々の多忙さに忘れてしまいがちであるのではないのでしょうか？

イエス・キリストはガリラヤ湖周辺の山上で教えられました。平和を造り上げるために努力する人々は幸いであると。そして、その人たちは神の子と呼ばれると。インドのガンジーやアメリカのキング牧師は自身、差別に遭遇しました。そして、差別をなくすため働きました。彼らは平和を造り上げたのです。私たちにできることは小さいかもしれませんが、けれど、常に平和をもたらす社会の実現に生きる事が出来たら幸いです。その時、イエス様はあなたを神の子と呼んで下さることでしょう。

牧師 永松 清

イエスさまはお友だち！！

～2019 教会学校ワンデースクール～

ワンデースクールは毎年天候が危なく雨になるかと心配しますが、そのたび晴れて神様の守りを感じます。今年も守られ部分参加を含めて9名の参加でした。日曜日開催のおかげで、流しそうめんを子どもたちに体験してもらうことが出来ました。思いのほかおかわりの出た注文に台所で汗を流して対応して下さいました。壮年会の皆さんありがとうございます。また夕食の準備に奔走して下さいました子どもたちの家族の皆さん、献金や献品を捧げて下さった方々、何より祈りながら支えて下さった皆さんに感謝いたします。

「イエスさまはおともだち」というタイトルでイエス様ってこんな方ということ、それぞれの分級毎に取り組みました。日中のそうめん流しや水遊び西瓜割りも大喜びで過ごしました。写真で様子をご覧下さい。元気に無事に過ごせたことを感謝します。(N.D.)



7月伝道礼拝証し

M.O.兄

私は、妻がコープ神戸暮らしの助け合いの活動を通じて、千田さんという責任者の方から、神戸垂水の聖三一コミュニティ教会に礼拝に行くようになり、私も休みの時には妻と一緒に日曜礼拝に車で行きました。

そのうちに妻は、牧師ご夫妻やSさん達のすすめもあり洗礼を受けました。それから何年か礼拝に足を運びました。ただ、2011年3月28日、妻の実家が火事で全焼しました。そのような状況の中で、親の介護等でこちらの方に足を運ぶ事ばかりで教会に行くことが遠のいてきました。

しかし、機会が変わってきたのは、娘たちが津島のアパートに引っ越してきてからです。隣にナザレン教会があったことで、娘や子供たち(Y., A.)の生活の様子に変化してきたと思っています。

牧師ご夫妻や教会の皆様方のお祈りや励ましのお言葉で頑張ってきました。私たちが日曜礼拝に参加するようになり、教会の皆様と交流の機会をもつ度に私も変化がでてきました。

その中で、妻が天に召されて強く感じる様になり、牧師先生達のお祈りや励ましのお言葉で、又、あすみのイエス・キリストの考え方のメールで、私も勉強しなければならないと心に決めました。

『主イエス・キリストの来臨のとき責められるところがないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように』(Iテサロニケの信徒への手紙 5:23)

『キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたのは、～しみやしわやそのようなものの何一つない聖く傷のないものとなった栄光の教会をご自分の前に立たせるためです』(エフェソの信徒への手紙 5:25～27)

『私たちはこのキリストを宣べ伝え、知恵を尽くしてあらゆる人を教えています。それはすべての人をキリストにある成人として立たせるためです』(コロサイの信徒への手紙 1:28)

聖書の中でこのような言葉を頭に入れながら、少しずつでも勉強していきたいと思っています。

